

第IV部門

業種と営業時間に着目した駅周辺施設の充足度に関する分析

大阪産業大学人間環境学部 正会員 吉川 耕司

大阪産業大学大学院人間環境学研究科 学生員 ○田淵 哲也

大阪産業大学人間環境学部

キュウ シン

1. 研究の目的

本研究では、学研都市線の7つの駅を対象として、営業時間を考慮に入れた駅周辺施設の業種別の充足度の分析を行った。分析対象駅を図-1に示す。



図-1 分析対象とした駅の位置と駅名

分析の手順は以下の通りである。まず、駅から一定半径内に存在する全商業施設を対象に、位置、業種、定休日および営業時間を調査する。そしてこの調査データをもとに、駅ごとの特性の把握や、駅間の商業利便性の比較を行う。さらに、開店時間帯に着目し、時間推移ごとの利用可能業種の減少度を算定するとともに、GISを用いた地図形式の表示やアニメーション化を行うことで、これらの空間的・時間的分布の視覚的な把握を試みる。

2. 駅周辺施設の現況調査

調査対象となる駅から半径400mの範囲に位置する町丁目を図-2に示すようにGISを用いて設定した。

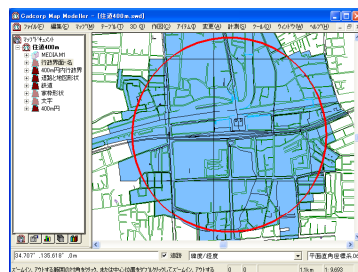


図-2 GISを用いた調査対象範囲の設定

調査した内容は、①所在地、②施設名称、③業種(分類)、④営業時間、⑤定休日である。調査データは表-1のように、

「日本標準産業分類」にもとづいた業種のコード化等を行っている。なお、調査施設数は1,394である。

表-1 調査データの集計

番号	階数	施設名	業種	定休日	開店時間	備考欄
2,37	1,2	でらた珈琲店	7041	木	700 1100	1400-1900
2,38	1,2	美容スタジオ	8231	月、第1の火第3の日	930 1830	
2,33	1,3	おかもと歯科	7331	火、土の午後日、祝日	930 1230	1500-1930
2,20	1,1	Heart in	5791	無休	630 100	
2,31	1,2	橋本治療院	7351	日、祝日	900 1900	
13,47	1,3	城東中央病院	7311	土の午後、日、祝日	830 1130	1730-2000
2,30	1,3	本家かまどや	7099	無休	1000 1900	
13,5	1,2	やなぎ屋クリーニング	8211	金	900 2000	
2,28	1,4	マツイ化粧品	5423	火	1000 1900	
2,27	1,2	たじま屋	5762	火	830 1730	
2,21	1,2	養老乃龍	7012	無休	1600 2300	
2,21	2,2	鳥貴族	7012	無休	1700 200	
2,24	1,2	野村不動産	6821	火、水	1000 1800	
15,6	1,1	シミズメガネ	6071	無休	1000 2000	日、祝日19時まで
15,11	1,3	ふるさとや	7021	日	1000 2000	
10,9	1,2	中華料理紅蘭	7014	火	1100 2200	
15,10	1,2	山本靴店	5641	月	1000 1830	
15,10	1,2	ブックセル	6041	無休	900 2000	
15,12	1,3	関西アーバン銀行	6121	無休	800 2000	土、日、祝日900-1700
15,14	1,3	トライ	7351	日、祝日	930 1230	1430-1830
15,15	1,1	モビーズエステート	6821	無休	900 2000	
16,25	1,2	ぽっかぽっか亭	7099	無休	1000 2200	

3. 生活行動の種類別にみた駅周辺施設の充足度

本節からは、対象駅周辺の商業施設が、日常生活の利便性の観点から買い回り等のニーズを充足しているかを、駅ごとの比較を行うことにより分析する。

まず、「飲食」「日常の買物」といった主要な生活行動を設定して、各駅の該当施設数を調べ、充足度の分析を行った。紙幅の制約により、図-3に「買物」行動に関する施設の集計結果(一部)を示す。

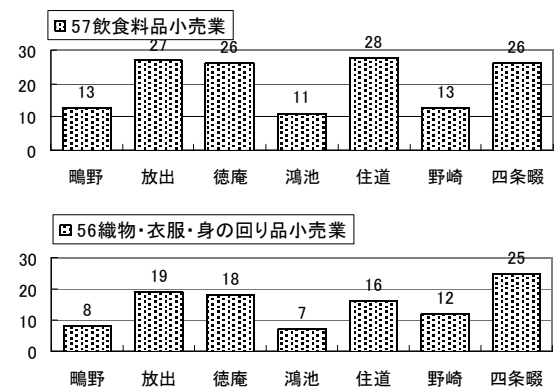


図-3 駅別の「買物」行動に関わる施設数(一部)

4. 営業施設数の時間変化に関する分析

図-4は、住道駅を対象として、0時から24時までの1時間ごとに、開店している施設数を、分類項目ごとに集計した結果を図示したものである。図からは例えば、物品を購入できる施設は23時にすべて閉店してしまい、その後は購入できないこと、また朝は午前7時の時点で購入が不可能なこと、等が読み取れる。

さらに、施設の「利用可能性」を、「1つでも開店していること」と捉えようと、表-2に示すように、利用が可能か否かを集約して表現することができる。こうした情報整理の方法を各駅ごとに行えば、駅周辺施設の充足度を、「品揃え」と「営業時間帯」の両者を考慮した形で、実感に即した形で評価することができると考える。

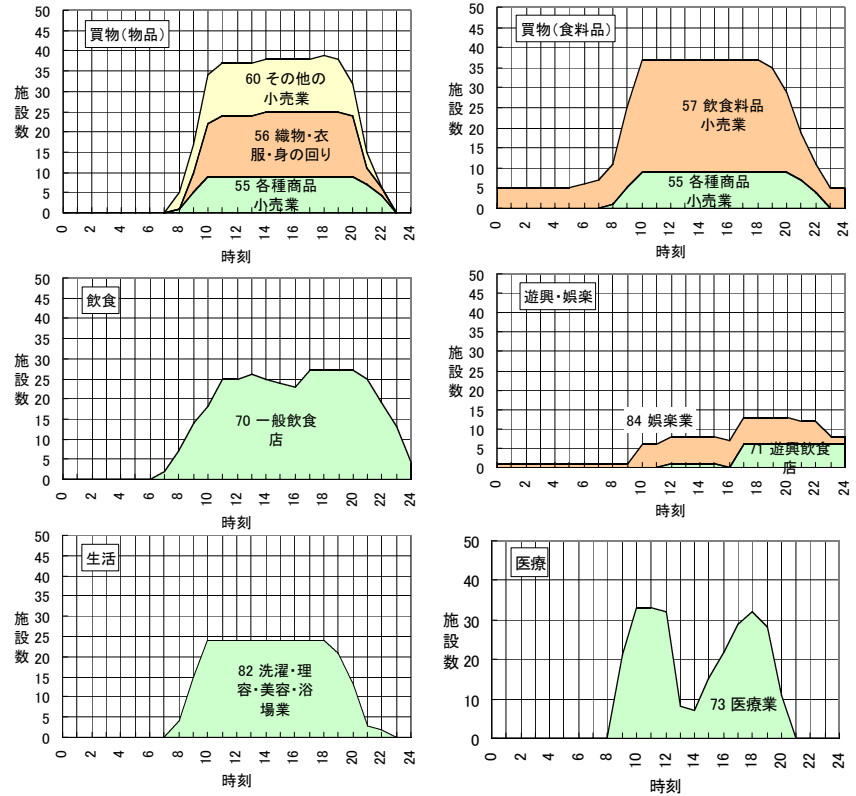


図-4 業種分類別の営業施設数の時間変化(住道駅)

5. 時間変化を取り入れた営業施設の地図表現

実際の生活行動を考えると、施設の位置も重要な行動基準となる。そこで、時間帯ごとの営業状態によってシンボルを色分けし、図-5のような表現を試みた。こうした地図表現を行うことにより、施設分布とともに、営業中か否かも判断できるため、実感的な施設利用可能性を把握することができると考えられる。さらに種別ごとの表現、複数駅の並列表示による駅ごとの性格の違いの分析、時間単位を小さくしたアニメーション化等への発展が考えられる。

6. おわりに

本研究では、業種と営業時間に着目して駅周辺施設の充足度を分析した。前者については「品揃え」の観点から、日常の生活行動に必要な施設が不足なく存在しているかを評価しようとした。また後者については、利用したいときに開店していることが施設利用には重要であり、実感としての利便性をつかもうとしたものである。定休日や、施設が存在するフロアも調査データとして取得しているので、さらに研究を進め、商店街等の再生方策を考えるうえでの現状分析の方法論としての構成を図りたい。

表-2 業種分類別の時間帯別利用可能性(住道駅)

生活行動	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
買物(物品)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
買物(食料品)	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
飲食	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
遊興・娯楽	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
生活	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
医療	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

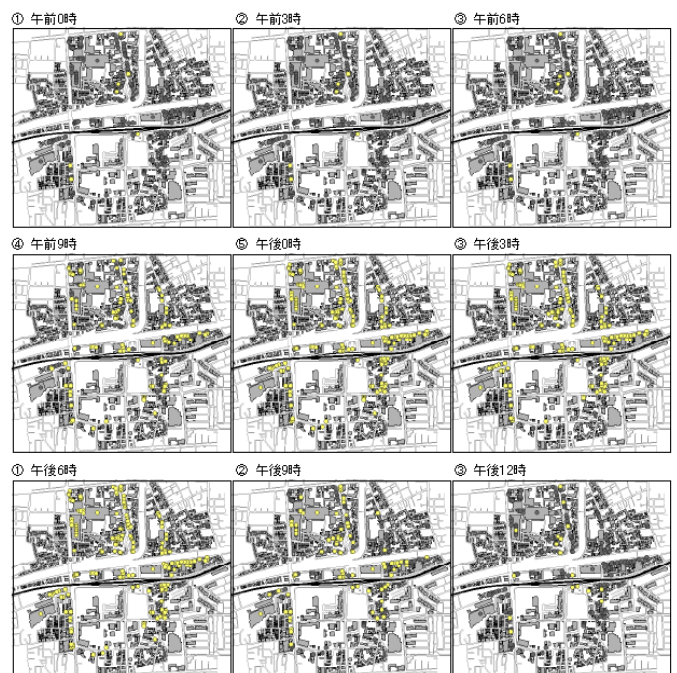


図-5 営業施設の時間変化の地図表現